

(別紙様式 = 中学校用)

都道府県番号	21
都道府県名	岐阜県

【   】

\*重点をおいた観点にチェックすること

### 学校名及び規模

学校名	八幡町立八幡中学校 (H16.3.1 から市町村合併により郡上市立八幡中学校)					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	1	13	31
生徒数	148	135	127	3	413	

### 研究の概要

#### (1) 研究主題

主体的に学ぶ生徒を育てる教科指導  
- 「わかった」「できた」「やってよかった」を生み出す授業づくり -

#### (2) 研究主題設定の趣旨

生徒へのアンケートで「どんなときに学習をやる気になりますか」という問いに対して、「わかったりできるようになったとき」「自分の力で何かをやりとげたとき」という回答が多く示された。このような生徒の意識や願いを踏まえ、生徒の確かな学力の向上のため、個に応じた指導の工夫改善を行い、一人一人の実態に応じたきめ細かな指導の一層の充実を図ることをめざして、研究主題を設定した。

### 研究の概要

#### (1) 研究推進体制の工夫

- ・全学年の英語、2年生3年生の数学、1年生の理科において、生徒の理解や習熟の状況に差が出やすい教科や学年であることを考慮して、1学級に2人の教師を配置し、少人数指導とTTを実施することとした。
- ・特定の教科だけではなく、全教科において基礎・基本を明確にし、生徒が主体的に学ぶための教科指導の在り方を追究し、学力の向上を図るよう実践研究を実施していくようにした。
- ・研究推進委員会での協議内容や提案を受けて、各教科ごとの研究の調整を図ったり、交流したりするために教科主任会を設置。さらに深くないようについて協議をするため、教科を3つに分けた教科グループ部会を設置し、研究計画や授業案、指導計画等について検討をしていくようにした。

#### (2) 研究の実際

特に、次のような点に重点を置き、実践研究に取り組んだ。

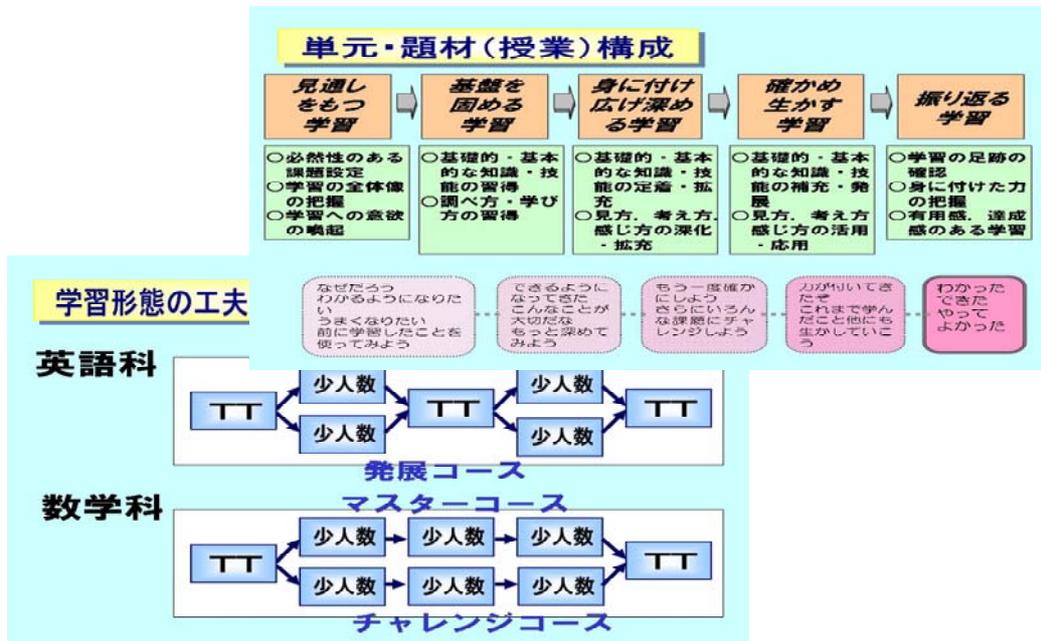
##### < 研究の内容・方法 >

1. 基礎的・基本的な内容の定着を図る単元指導計画の作成
  - (1) 単元・題材における基礎的・基本的な内容の明確化
  - (2) 単位時間の役割や関連の明確化(単元の構造化)
2. 見方や考え方、感じ方を広げたり深めたりできる指導方法の工夫
  - (1) 学習形態の工夫
  - (2) 個に応じた指導の工夫

### 学習形態の工夫

昨年度、数学科において、年間を通して2学級を等質の3つの学習集団に編制し、教える人数を少なくして学習の効果を上げようと試みた。その結果、人数が少なくなる等により、たくさん質問ができる、ノートやプリントがていねいに見てもらえる等の肯定的な声が多くある反面、学級集団が解体され、その時間だけ別の学習集団になることから生じる生徒の不安などもあった。そこで、本年度、昨年度の課題や教師の指導体制などを考慮し、英語科においては全学年、数学科においては2・3学年、理科においては1学年で、1学級に2人の教師を配置し、少人数指導やTTを柔軟に行えるようにした。

特に、英語科と数学科では主に、一人一人の理解や習熟の程度に応じた少人数指導を実施した。選択の仕方は、生徒自身の自己評価を基に、教師がアドバイスをして選択をするようにした。  
理科では、課題や追究の方法に応じて学級を2つに分け、少人数指導を実施した。



これらの実践は、どれも単元の中で、学級集団で学べるTTのよさを生かしながら、生徒一人一人の力を伸ばす少人数指導を行っていくという柔軟な取組とした。TTや少人数指導のそれぞれのよさを生かしながら指導方法の工夫をした。  
他の教科では、その時間のねらいや学習内容に応じて、ペア学習、グループ学習を工夫した。

**個に応じた指導の工夫**  
本年度の各教科の実践をまとめると、大きく3つの「個に応じた指導」の在り方が見えてきた。言い換えると、生徒一人一人のどんな違いに応じて、よりきめ細かく指導していくかが見えてきたということである。  
1つ目は、生徒の理解や習熟の程度に応じた指導であり、前述した数学科や英語科の習熟の程度に応じた少人数指導である。  
2つ目は、技能を習熟させていく過程で見られる「つまずき」とその要因に応じた指導である。  
3つ目は、生徒の学習スタイルや身に付け方に応じた指導である。

### 個に応じた指導の工夫 (つまずきとその要因に応じた指導)

予想されるつまずき				
	状態	けがき線からずれる	斜めに切断される	断面が斜めになる
原因		がしっさり固定さなくて動く	材料が斜めになっている 目・刃・けがき線の位置がずれている	目・刃・けがき線の位置が斜めになっている
	指導ポイント	材料が動かないよう足や手を使う工夫する	体・刃・けがき線を一直線にする。	材料の横の面(けがき線)を見ながら切断する。
それに対する指導	工夫	片足片手を使った固定やイスの固定方法を工夫する	体の位置か切断面のやや左になるよう工夫する	ヘアで作業しながら、一直線になっているか確かめながら切断する
			つまずきになっているか仲間に見てもらう	

**教材や教具の工夫や開発と学習環境の工夫改善**  
数学科では、補充的な学習や発展的な学習に応じた学習プリントの作成や、生徒のつまずきを予想した上でのヒントカードの作成をし、生徒が必要となときに活用できるようにした。また、理科では、生徒が自分の課題に合わせ実験方法が選択できるように、実験装置や教具を工夫したり、美術科では、彫刻刀の使い方が分かるように、模型のモデルを作ったりするなど、各教科でいろいろな工夫や開発をした。

(3) 研究の成果と課題

【成果】

・各教科において、基礎的・基本的な内容を明らかにし、生徒の意識の流れや認識の深まりに沿って、単位時間の役割や学習内容の関連を明らかにし、単元の構造化

をしたことで、生徒自身が学習の見通しをもち、その時間の課題をより明確につかんだり、それまでの学習と関連づけて考えられるようになるなど、主体的な学習の姿を生み出すことができた。アンケートの結果でも、約80%の生徒が「毎時間の授業の内容が繋がっていて学習しやすいし取り組みやすい」と答えている。

・単元や題材、1時間の授業、さらには教科以外の学習活動にもあてはまるような、「単元・題材の構成(学習の流れ)」を再確認することができた。

・数学科、英語科、理科において、1学級を2人の教師が担当することによって、TTや少人数指導を組み合わせた弾力的で効果的な指導が可能になった。昨年度と本年度、少人数指導を経験した3年生を対象のアンケートの結果、約70%の生徒が、本年度のような少人数指導(1学級を2つの学習集団に分ける)がよいと答えている。

・個に応じたきめ細かい指導を意図的に継続的に行うことで、「できない」「わからない」という理由で学習意欲をなくす生徒が減り、苦手でも「ここまでわかるようになった」「自分なりに上達した」という達成感を味わい、ねばり強く学習に取り組む生徒の姿が増えてきた。アンケートの結果90%以上の生徒が、「自分の分からないところやうまくいかないところに合わせて教えてくれたり、個人的にアドバイスをしてくれたのでわかりやすい」と回答し、80%の生徒が「授業で、分かった、できたということが多くなった」と回答している。

#### 【課題】

・数学科、英語科、理科において、TTや少人数指導を行ってきたが、今後さらに学習内容や学習状況に応じて選択ができる場で、より多く、より効果的な少人数指導の位置づけ、一層きめ細かな指導の在り方を追究する。  
・個のつまずきを分析し、生徒の学習スタイルやタイプに応じた指導の手だてを講ずることで、より一層一人一人の生徒に確かな力を付けるように実践を進める。  
・主体的な学習を生み出す上で、授業や単元・題材の自己評価の工夫と合わせて、その自己評価の基になる、目標やめあてをどのようにもたせるかについて、今後研究実践を進める。

#### (4) 研究成果の普及の方策

美濃地区の全小中学校の教頭が参加する「美濃地区指導方法改善研修会」において、八幡中学校の実践を発表し、交流をした。  
美濃地区22校の中学校に参加を呼びかけて公表会を実施し、研究内容に即して数学と英語の習熟の程度に応じた少人数指導の公開や、理科での課題別の少人数指導の公開、さらに他の教科においてもきめ細かな指導の在り方を具体的に位置付けた授業を公開した。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校

【学校規模】  3学級以下  4～6学級  
 7～9学級  10～12学級  
 13～15学級  16学級以上

【指導体制】  少人数指導  T・Tによる指導  
 その他

【研究教科】  国語  社会  数学  理科  
 外国語  音楽  美術  技術・家庭  
 保健体育  その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無

#### 【特色ある取組事例として紹介したいポイント】

- ・数学、英語、理科における習熟の程度に応じた少人数指導はもとより、全教科において、基礎的・基本的な内容を明確にし、生徒が主体的に学ぶための教科指導の在り方を追究している。
- ・数学、英語、理科においては、1学級を2人の教師が担当することにより、TTや少人数指導を組み合わせた生徒の実態と学習内容に応じた、弾力的で効果的な指導が展開されている。
- ・このような取組の結果、確実に生徒に力が付いていることが分かる。80%以上の生徒が「授業で分かった、できたということが多くなった」と回答している。また、90%以上の生徒が「自分の分からないところをていねいに教えてくれたりしてわかりやすい」と回答している。